

分野別の課題について

1 健康・福祉

基本施策 1

1) 健康長寿のまち武蔵野の推進

1, 補聴器の支援について記述してはどうでしょうか

p19 健康長寿のための3要素 運動・栄養・社会参加のうちの「社会参加」をするために、難聴になると人に会うのが億劫になり、認知症のリスクも増大することから、補聴器の支援が必要ではないでしょうか。

2) 武蔵野市ならではの互助・共助の取組みの推進

2, 70代80代の方々が集う「自由な」場の提供

p20 テンミリオンハウス等や地域活動においても、既存の人間関係が強固にできあがっていて、転居やリタイアをしてはじめて地域デビューをしようかと思っただけのお元気な70代80代の方々が参加しにくく活躍の場が少なくなっているということに課題意識を持つ必要があるのではないのでしょうか。

3, コロナ禍でのいきいきサロン事業が原状回復しつつありますが、地域での拡充には会場の開催場所や開催の日にちが課題になっています。公共施設も視野に入れ検討すべきではと考えます。

4, シニア支え合いポイント制度も以前レベルまではポイント付与数が回復されていないとあります。活動場所の拡充を考え取組んできましたが、ポイント制度の拡充場所を考え直す必要があるのではないのでしょうか。

5, 摂食嚥下支援体制に触れられていません。

基本施策 2 生命と健康を守る地域医療充実への取組みと連携の強化

6, がん検診

がん検診を受けやすい環境づくり、早期発見に向けた取組みを強める必要があります。がんの早期発見や効果的な治療を行うには、検診の受診率を向上させる事が重要で、土曜検診の拡充、セット検診の受診人数の拡充などに取組んではと考えます。

基本施策 3 安心して暮らし続けられるための相談支援体制の充実

1) オールライフステージにわたる相談支援体制の充実とネットワークの強化

7, 福祉総合相談窓口の拡充

p 20

福祉総合相談窓口は、充実させて頂きたい。書き込みの通り、市民の認知度が低いのでぜひ必要な方に情報が届くようお願いしたい。

8, 認知症の方や家族に対する支援

認知症カフェの開催を支援と評価されており（中間評価 p9）、「チームオレンジ」による具体的な支援体制強化が必要とありますが、「チームオレンジ」の周知啓発を広く行うべきと考えます。認知症の家族を支える「認知症サポーター」が活躍できる環境整備、活動支援にむけた取組を強める必要があります。

基本施策4 福祉人材の確保と育成に向けた取組み

9, 福祉人材について

離職者が多い福祉人材の確保と定着は、喫緊の9, 福祉人材について課題です。福祉に従事する人への処遇改善や支援を強化することも必要ですが、武蔵野市認定ヘルパー制度などの裾野を広げ育成もさらに必要と考えます。そして、介護分野等における外国人人材の増加、支援については、社会情勢を見て検討が必要と考えます。

2, 子ども・教育

基本施策1 子どもたちが希望を持ち健やかに過ごせるまちづくり

1, 武蔵野市 子どもの権利条例（仮称） p 23

武蔵野市 子どもの権利条例（仮称）については、内容についてまだ市民の理解が進んでいない部分も感じています。市民に喜んでもらえる条例となるよう話し合いの場を多くもって理解をすすめて頂きたい。

2, 相談支援体制の強化と SNS の活用

p 24 3) 福祉専門職配置による相談支援体制 の強化

福祉専門知識を持った職員が増えることは望ましいと考えます。

人材不足という課題もあるので、採用するのか職員研修で補うのかは工夫が必要だと考えます。その上で、相談したい方が窓口に来たとき不適切な対応とならないような体制をとって頂きたいことと、SNS ネイティブの世代は、役所に来るとか役所に電話をすることが既にハードルになるので、SNS による相談体制についても進めていくべきではないでしょうか。

基本施策 2 2) 保育の質の向上に向けた取組みの推進

3) 小学生の放課後施策の充実

3, 保育、学童の質の向上

福祉的な分野なので、ぜひ十分な人件費をあてて、子どもが被害者にならないようにお願いします。

子ども協会に次々に事業が移管され、子ども協会の負担が急に大きくなっているように感じている。市からも十分な支援をご検討ください。

学童クラブ利用者が増加傾向にある中、民間学童クラブが参入してくれることはありがたいですが、料金面で大きな差があるので、育成料を所得に応じて分けるなど次のステップを考える時期にきているのではないかと考えます。

基本施策 4 5) 一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援の充実

4, インクルーシブ教育の拡充

インクルーシブ教育システムというところに止まらず、障がいがある子どもたちや医療的ケア児等が安心して地元の学校で学べる環境作り（看護師の配置やバリアフリー、教員の理解など）を進めて頂きたい。

5, 読み書きに配慮の必要な子どもの早期発見、早期支援

読み書き困難は、知的発達に遅れがないのに「読む」ことや「書く」ことに苦手さを抱える状態を指し、宇野彰 筑波大学元教授の研究によれば、8%ほどの発生率があると言われていますが、保護者も先生方も困難の状態に気がついていない場合が少なくないと指摘されています。障がいに気がつかないことで自分はだめだと思うな2次障がいが出てしまうことがないように、小学校1年生の1学期に一斉検査し、早期支援につなげてはどうでしょうか。

6) 不登校対策の推進と教育相談の充実

6, 不登校特例校の分校

不登校の子どもたちは増えており対応が必要です。

保健センターの増築及び大規模改修によって整備する複合施設内に移る際に、不登校特例校の分校としてチャレンジルームを整備してはどうでしょうか。

基本施策 5 教育環境の充実と学校施設の整備

1) 教育力の向上をもたらす教職員の働き方の追求

7, 教員の多忙化解消

喫緊の問題であると思います。教員でプロジェクトチームを作り、削減できる事務を考えてはどうでしょうか。各校で考えるには、負担も大きいし、何かを削る時、校長が全責任を負うのでは荷が重く現状維持になってしまうのではないのでしょうか。

4) 学校改築の着実な推進と安全・安心かつ適切な施設環境の確保

8, 学校建て替え

学校施設の建て替えがスタートしているが、物価の高騰など建設計画の大きな課題に直面している。非常にタイトなスケジュールのもとで今後の計画推進に憂慮しているが、教育現場への過度な負担や混乱を招かないよう、柔軟な見直し等の対応を求めます。

3, 平和・文化・市民生活

基本施策1 多様性を認め合い尊重し合う平和な社会の構築

1, 平和

本市における戦争の歴史を伝えていくこと重要であるが、現在世界において発生している戦争・地域紛争などを通して、平和を訴えていく必要があると考えます。暴力否定の姿勢を醸成する施策を求めます。

基本施策2 災害への備えの拡充

1) 災害への備えの拡充 p28

2, 防災対策 ハード・ソフトの両面からの対策が必要と考えます

ハード面：ライフラインの強靱化や災害対応の施設整備は喫緊の課題と考えます。避難所となる公共施設の整備や電線地中化、老朽化した建物の更新、災害時用トイレなど防災設備の拡充、といった対策の強化を求めます。

ソフト面：地域防災会や避難所運営組織の立ち上げによって個々の取り組みも進んでいるが、なり手不足・高齢化により限られた人が複数の役割を担っており、運営が困難な組織も多い。継続して地域防災に取り組める支援が必要である。一方で、いざという時、具体的にどんな行動をとればよいか周知が行き届いていないという課題がある。新たな住民となった市民や外国人住民への対応強化を進めるべきと考えます。

3, 災害時のペットの対応

ペットを飼っている方にとっては、ペットは家族であるが、ペットを飼っていない方にとって理解できない部分もあり、避難所などで混乱のもとになるおそれがあります。災害時のペットの対応について、飼い主の役割や市にできることを検討し周知することが必要と考えます。

基本施策4 地域社会と市民活動の活性化

4, 地域コミュニティのあり方

これまで培ってきたコミュニティ活動を踏まえ、社会の変化や地域ニーズなどに伴って、事業の展開、管理業務のあり方を見直していく必要があると考えます。

世代や新旧を問わず、多くの人が参加できるような仕組みづくりを検討するとともに、指定管理者制度を活用した管理運営のあり方、行政の関り方も再検討すべきと考えます。

基本施策7 まちの魅力を高め豊かな暮らしを支える産業の振興

2, まちの魅力向上を目指して p31

5, ふるさと応援寄付事業に外部人材

まちの魅力発信は重要であるし、市税の流失も年々増えていることも考えますと

ふるさと応援寄付事業を強化すべきではないでしょうか。その場合に職員というよりは、専門の経験を持った外部人材にお願いした方がよいのではないのでしょうか。

4 緑・環境

基本施策1 刻々と変化する環境問題への対応

1, 「むさしのエコ re ゾート」の周知啓発

コロナ禍で利用者も思うように増加しないまま、知らない人も多いので、更なる周知・啓発をし、市民に利用してもらおう工夫が必要と考えます。

基本施策2 地球温暖化対策の推進

2, 2050年ゼロカーボンシティ 実現に向けて、市・市民・事業者が一丸となって取組みを進めていくため、「気候市民会議」を開催しており、市民意見をもとに、気候危機打開武蔵野市民活動プラン(案)作成とあります。効果的な支援策を検討するとともに、このプランを多くの市民に知って貰えるように求めます

3, ごみの減量と適切な分別

コロナ禍で生活が変化しごみの排出量が増加、ごみ排出抑制やごみ処理の効率化を考え、市民のごみ減量の意識を高める啓発が必要です。

4, プラごみの分別・収集のあり方

プラごみについて、政府が新たにまとめたプラスチック資源循環促進法案では、作業を要する人出を削減するなど自治体の負担軽減にも繋げるとあります。本市での収集のあり方も更に検討を求めます。

基本施策3「緑」を基軸としたまちづくりの推進

1) 街路樹等の緑の保全・管理

5, 街路樹等の管理

記述のとおり高木化や根上がり、枝葉が民有地に入り支障を来しています。今まで、枯れ葉の処理に協力してくださっていた市民の高齢化が進み、容易でなくなっている場所も多く、今後、落ち葉の清掃などについて、市と市民ボランティアとのバランスを検討しなくてはならないのではないのでしょうか。

3) 緑と水のネットワークの推進 と森林整備

6, 玉川上水・千川上水の保全と利活用

「玉川上水・分水網の保全活用プロジェクト」は、ユネスコの未来遺産にも登録されており、玉川上水や千川上水の散歩を楽しまれる方もたくさんいらっしゃいます。玉川上水、千川上水を守り、緑と水辺の癒やしの空間として、水辺の公園などの整備も進め、利活用していく姿勢をもっと示してもいいのではないのでしょうか。

5 都市基盤

基本施策1個性あふれる魅力的な地域のまちづくり

2) 魅力的な景観の保全と展開 p37

1, 無電柱化の推進

重要であると考えます。ぜひ進めてください。

基本施策3誰もが利用しやすい交通環境の整備

2, 自転車駐車場の整備

子ども乗せ自転車や電動アシスト自転車の増加により、自転車駐車場整備のニーズも変化中、駐輪台数の見直しも含めた今後の整備方針の検討を求めます。

3, 自転車利用のマナー向上

暴走自転車や信号無視等の改善を求める声が多数寄せられている。歩行者の安全対策としても大きな課題として受け止めています。自転車安全利用講習会等で取り組みを進めているところではあるが、近隣自治体との連携も含め、対策強化を求めます。

基本施策5 安心して心地よく住み続けられる住環境づくり

4, 高齢者の住宅確保を支援

民間オーナーは、高齢者の入居にリスクを強く感じており、80代を過ぎてからの転居がたいへん困難で、高齢者が劣悪な住環境に住まざるをえない現状をよく調査し対策を考えて頂きたい。

基本施策6 活力とにぎわいのある駅周辺のまちづくり

5、3 駅圏の課題

吉祥寺地域：南口再開発の方向性をどのように決めて進めていくのか。行政側と地域側の課題認識を共有したうえで、具体的な協議の場を設け、相互理解を深めながら進めていくことを求めます。

三鷹地域：未利用地・低利用地の活用をふまえ、これからのまちの姿をどのように作り上げていくのか具体策の検討・実施を求めます。

6 行財政

基本施策1 市民参加と連携・協働の推進

1, 住民投票条例について

住民投票条例については、市民の理解が大前提である考えます。条例制定の背景や趣旨に対する市民理解の深化を踏まえた上で、多様な市民との熟議・熟慮を重ねるべきものと考えます。

基本施策2 効果的な広報・広聴の仕組みづくりとシティプロモーション

2, 市のHPをわかりやすく

HPが新しくなりよくなった部分もありますが、引き続き市民が活用しやすいHPづくりや、SNSでの発信を強化して頂きたい。

基本施策3 公共施設等の再構築と市有地の有効活用

3, 公共施設等総合管理計画、長期計画、分野横断的プロジェクトによる検討の位置関係と議会との関係を整理

第2期武蔵野市公共施設等総合管理計画の策定にあたり、分野横断的プロジェクトにより大きな決定が行われ、それにより第六期長期計画・調整計画の議論を待たずして、保健センターの増築などの事業が動き始めました。これらの流れは、長期計画が最上位計画であるとし、長期計画や長期計画・調整計画について、市民や議会と丁寧に検討をしている計画行政の網の目を抜けて、分野横断的プロジェクトの決定事項がそのまま個別の事業として動き出したようみえました。長期計画において、より具体的に議論を進めるためには、総合管理計画を先行して組む必要があることは理解しますが、その総合管理計画について議会とのやりとりが、総務委員会の行政報告とすることは不足ではないでしょうか。全議員としっかり

りとした議論をするかたちを検討すべきではないでしょうか。

基本施策4 社会の変化に対応していく行財政運営

4, 財政援助出資団体の指導監督

武蔵野文化生涯学習事業団や武蔵野市給食・食育振興財団など、所管する担当課が複数にわたる団体の指導監督においては横の連携が重要です。継続した体制の見直しや柔軟な機構改革の実施を求めます。

特に武蔵野市子ども協会においては、昨今の子育て環境改善の動きに合わせ、市の支援強化も必要と考えます。団体の運営実態をよく把握し適切な対応を実施していくことを求めます。

5, 自治体 DX をすすめる

全庁横断的な DX 推進に期待しています。そのためにも、横断的に動ける DX 推進に特化した部門を創設すべきではないでしょうか。ひとつひとつの業務を RPA などで効率することと、全体としての DX 戦略を考えることは、別ものとして考えた方が適切ではないでしょうか。

※ 討議要綱の項目は、太字にしています